

がん政策サミット 2011 7/18 (3日目)

「地域で抱えている問題の解決策について全員で話し合おう」

Q&A セッション (60分) 参考資料

## 事前に募集した皆さまからのご回答集

「がん政策サミット 2011」の開催にあたり、皆さまからいただいたご質問やご相談の一部に対し、事前に回答を募集したところ、多くの皆さまからコメントをいただきました。

ご質問やご相談をお寄せくださった皆さま、そして、回答をしてくださった皆さま、誠にありがとうございました。

サミットでの意見交換の場をより充実したものにするために、いただいた回答をここに共有させていただきます。なお、Q&Aセッションでは、下記の質問について、意見交換の場を設けさせていただきたいと考えています。ぜひ、皆さまのご経験やお知恵をお貸してください！

- 行政（県）のがん対策担当者に、サミットのようなイベントと一緒に参加してもらうための秘訣は何か。
- 資金確保と組織運営について、どのような方法があるか。
- 患者関係委員としての立ち位置、考慮すべき事柄、コンフリクト（葛藤）など、どのように考えればよいか。
- 国とのパイプはどのように作ればよいか。
- ピアサポート事業に取り組んでいる地域の好事例を知りたい。



参加者からの質問①:「がん条例」についておたずねします。  
 (がん条例が既に制定されている都道府県の方)がん条例ができてから、どのような変化がありましたか。

| 回答者のお立場 | 回答内容  |
|---------|---|
| 患者関係者   | 昨年末に成立。昨年まで専任は2名だった専任職員が4人になった。県のHPにがん専門のページを開設する予算と、情報提供として必携を補う地域版作成が盛り込まれた。  |
| 患者関係者   | 奈良県では2009年10月全国で6番目の「がん対策推進条例」が可決・施行されました。条例には、10月10日を「奈良県がんと向き合う日」と定めて、毎年県主催の行事が実施されます。昨年第1回行事実施済み。  |
| 患者関係者   | 今までにもがんに関する活動をして来ましたが関心度が低く、講演開催などでも協力を得にくいことがありました。自分達の考えを条例をもって説明をすると理解を得るのが早くなりました。  |
| 医療関係者   | 県全体としての取り組みができるようになりました。うまくいっているところといかないところがありますが、がん登録がはじまったことは大きな変化と思います。  |
| 患者関係者   | ○がん対策予算が増加した。○がん対策に係る県職員が増えた。○県職員ががん対策に前向きに対応するようになってきた。○議会も啓発活動等に参加するようになってきた。   |
| 医療関係者   | 熊本県がん診療連携協議会のもとに5の部会(診断、放射線治療、化学療法、緩和医療、相談支援・情報連携)が設けられ積極的な活動を行っている。特に地域連携パスは全国的に先行しています。   |
| 行政関係者   | ①複数のがん患者等関係者ががん対策推進協議会の委員になるなど、がん対策により多くの人々参加が得られるようになった。②県にがん対策を担当する職、係が設置された。等  |
| 患者関係者   | 早く出来たところと 遅く出来たところには差がある。<br>早く出来たところはその条例を起爆剤にして、推進計画の基としさらにメディアを活用して県民行政、医療現場の意識変革にまで及ぼしている。<br>遅く出来たところは 進捗状況の差によって 対応は異なっている。<br>いずれにしても 条例の効果は大であった。 |

(がん条例がまだ制定されていない都道府県の方)がん条例制定にむけて、どのような動きがありますか。

| 回答者のお立場 | 回答内容   |
|---------|--|
| 患者関係者   | 鹿児島県では昨年「陳情」という形で、条例案を添えて県議会に提出していますが、いまだ通らないところです。  |
| 患者関係者   | 2009年に知事によりマニフェスト化された。<br>表立った動きが見えないので他府県の好事例を参考に、独自案をホームページにアップした。                           |
| 患者関係者   | 制定済み。  |
| 患者関係者   | 5月末、本年度末制定に向けて県主導の準備会が細々と動き始めましたが、県担当部署が根本的にそもそも論(入口)でつまずき、仕切り直し、というのが現状。<br>年度末制定のみいきております。   |
| 行政関係者   | 議員連盟は設立された。  |
| 患者関係者   | まずは、患者団体が条例の必要性について学ぶ。条例策定に向け市や県の担当議員と面談。議会の傍聴。がん対策先進県から講師を招き講演と意見交換会などを行った。ゆるゆると条例への灯台が見えて来た。 |

参加者からの質問②:「がんサロン」についておたずねします。

みなさまの地域に「がんサロン」がありますか。その場合、具体的にはどのような活動が行われていますか。

| 回答者のお立場 | 回答内容   |
|---------|--|
| 患者関係者   | 質問のお答えとは違うが、まず「サロン」と「ピアサポート」のすみわけが必要かと思っている。   |
| 患者関係者   | 拠点病院の半数くらいが病院内で月一回程度のサロンを始めた。ある程度機動に乗っているのはまだ2～3病院。担当スタッフは2～3人。一回2時間程。主催者は人集めで悩んでいる。   |
| 患者関係者   | 群馬大学医学部の中にごんサロンがあるようです、提案になります私私の勤務する調剤薬局をカーテンで仕切って飾り患者さんがゆっくり話せるコーナーを作りました。効果があるので薬局でのサロン作りを考えています。                                 |
| 医療関係者   | 日時を決め病院内で開催されています。患者さんが集まられてさまざまな話をされています。情報伝達や共有といった点でもある程度の役割を果たしていると思います。が、この先どうされるのかといつも思っています。                                  |
| 患者関係者   | 「がんサロン」在ります。ピアサポートの養成、がん患者相談支援等、無・有料にて常設。NPOが就労支援事業の助成を受け取り組んでおります。  |
| 行政関係者   | 拠点病院と、未設置圏域では保健所にてがんサロンを月1回開催。がん患者団体連絡協議会が開催するピアサポーター養成講座を修了した者がファシリテーターをつとめている。   |
| 患者関係者   | あります。7月21日に5番目のがんサロンができます。活動はピアサポーターがファシリテーターを務め参加者から質問や悩みを聞いて、みんなで話し合いをしている。時には専門家(栄養士、相談員)の話も聞く。                                   |
| 患者関係者   | 一部の拠点病院内にて1～2回/月 定期開催」。自由参加。患者や家族でなくても遺族、携わる方など誰でも参加可能。テーブルを囲んで皆が同じ話を共有。サロン参加へのルールを決めている。ピアサポーターも参加                                  |
| 患者関係者   | 現在、6つの拠点病院では活動中です。また県の支援病院でも開設を目指し模索中です。サロン自体は自由な発言が主体の会です。終了後はアンケートを書いてもらい、集計、分析して充実した進め方を目指しています。                                  |
| 医療関係者   | 厚生労働省指定の都道府県、地域、県指定のがん診療拠点病院14カ所中10カ所に、又個人が主催する4カ所、計14カ所のサロンが月1回開催されています。  |
| 行政関係者   | がん対策推進協議会で検討することとしています。  |
| 患者関係者   | 各がん拠点病院内にごんサロンがあり部位別に勉強会をしているところや語り合いの会をしているところなど独自の活動をされています。   |
| 患者関係者   | 1) いやしと情報収集機能<br>2) セカンドオピニオン機能(自分の治療はこれでいいのか?)<br>3) 賢い患者になるための勉強の場<br>4) 行政に対してなど提言機能<br>どのコースを進むかはリーダー次第 サロン開設の原点は「癒し」であることは間違いない |
| 患者関係者   | 茶話会を兼ねた情報交換の場にとどまっているのが現状です。患者会からは、仲良しクラブのような活動のみならず、ボランティアとしても働きたいと言う声が上がっています。   |
| 患者関係者   | 有志や病院によって其々にサロンはあるが連携は取れてない。   |

参加者からの質問③:「がん患者必携の地域版」についておたずねします。

みなさまの地域で、「がん患者必携の地域版」を作る動きがありますか。その場合、具体的にどのような動きですか。

| 回答者のお立場 | 回答内容   |
|---------|--|
| 患者関係者   | 調査予算がついた段階。連携拠点病院の相談支援センターの充実、がんサロンを軌道に乗せるなど個々の支援機能が強化されないと、地域版の効果が期待できないのでは、と思っています。                |
| 患者関係者   | 奈良県ではがん対策推進協議会の「緩和ケア・在宅医療チーム」で奈良県版「患者必携」と「主治医必携ガイド」を作成中です。チームは医師会副会長、ホスピス医、在宅医、訪問看護師、薬剤師、患者側委員などで構成。 |
| 患者関係者   | 一緒に活動している方の中にがん経験者やご家族をがんで失った方がいますので講演会や模擬患者養成の中で説明し協力要請中ですが前段階の状況です。                                |
| 医療関係者   | 話としてはできることもありますが、具体的にはまだです。  |
| 患者関係者   | 沖縄は昨年度県予算で2万部作成いたしました。残念ですが、何のために作成したのか目的も責任の所在も曖昧なものが、作成されてしまいました。がんを発症した方の不安に寄り添う内容にはほど遠いと思います。    |
| 医療関係者   | 熊本県共通のがん地域連携パス「私のカルテ」が5大がん全てと、前立腺がん、婦人科がん、その他の共通のがん、について作成されて、平成22年度全県で369件運用されています。                 |
| 行政関係者   | 23年度中の作成・発行を予定しています。   |
| 患者関係者   | 広島県では作成しがん拠点病院・患者会・などに配布しております。  |
| 患者関係者   | [がんサロン支援塾の]の開催を機に、「がんサロンバイブル」を作ろうとしている。  |
| 患者関係者   | 乳がん患者の会「あけぼの群馬」で、群馬県版「乳がん患者のためのガイド」の作成を考えています。県内の乳腺外科医やリンパマッサージについてなど、体験談を交えてまとめてはどうか、と。             |
| 患者関係者   | 患者団体紹介と活動内容を紹介しているガイドブック「そばにいるね」   |

参加者からの質問④:「がん難民」についておたずねします。

がん難民を出さないために、皆さまの地域では何か対策が行われていますか。それはどんな対策ですか。

| 回答者のお立場 | 回答内容   |
|---------|--|
| 患者関係者   | 鹿児島県では情報提供の1つとして、行政の予算で「鹿児島県がん医療・がん検診機能情報提供システム」を作っています。がん医療や検診に関する検索機能がついたHPです。                     |
| 患者関係者   | がん情報提供と相談支援の充実   |
| 患者関係者   | 良くわかりません。  |
| 患者関係者   | 薬局で投薬する時などに相談に載る程度なのですが精神的なストレスを軽減するように話しを聞くだけで金銭的なアドバイスはの対策についてはまだ出来ませんので対策を模索中です。                  |
| 医療関係者   | 医療機関がたくさんある都会と地方の場合の意味合いは異なるかと思います。都会の場合のいわゆる”がん難民”と受診機会を得ることが困難な地方の場合は異なりますが、病診連携に心がけております。         |
| 行政関係者   | 拠点病院を中心として普及啓発事業等を実施。  |
| 医療関係者   | 相談支援・情報連携部会と緩和部会を中心とした地域のネットワーク構築が進んでいます。  |
| 行政関係者   | 相談支援体制の整備について検討しています。  |
| 患者関係者   | 企業団体に「就労支援」「がん基金」などを依頼している。  |
| 患者関係者   | 治療や経済状態の問題ではなく、あくまでもその患者さんの心のあり方、被害妄想、独善的な態度が横行し、患者サロンが立ち行かなくなったことがあります。手紙で退会を促し、国立がんセンターへの相談を勧めました。 |
| 患者関係者   | ここまで問題提起が成されていない。<br>日本国民として格差のない医療が理想だが、僻地においては病院を選ぶことも出来ない、がん難民度も高い。                               |

参加者からの質問⑤:「地域連携クリティカルパス」についておたずねします。

地域連携クリティカルパスの運営がスムーズに行われるためには何が一番必要と考えますか。最も必要であると考えられることをお書きください。

| 回答者のお立場 | 回答内容   |
|---------|--|
| 患者関係者   | 医療機関同士の連携の充実。医療機関と在宅医療機関同士の連携の充実。  |
| 患者関係者   | 医療施設及び担当医療従事者の顔の見えるネットワークを構築するための事業  |
| 患者関係者   | 良くわかりません。  |
| 患者関係者   | 異業種、異分野にわたる多くの人の参加とそれぞれの高度な参加意識。優秀なキーパーソン。   |
| 医療関係者   | 病院間、医師間の連携、患者さんの理解と意識です。   |
| 行政関係者   | 関係機関・者の意思統一。   |
| 患者関係者   | 患者主体である事、そしてメリットを伝える事。決して切り捨ててでは無い事。診療所の安心感を伝える。                                     |
| 医療関係者   | 拠点病院、病院、診療所、在宅、訪問看護、介護、保健師、保険薬局を包含するネットワークの構築、及び患者情報の共通のプラットフォームである「私のカルテ」の運用だと思います。 |
| 行政関係者   | がん対策推進協議会で検討することとしています。  |
| 患者関係者   | 医者だけでなく患者側も理解しなければ上手く行かない。   |
| 患者関係者   | 拠点病院とホームドクターとの医療連携。<br>個人のがん既往歴が記される為、がんへの認識、治療や副作用などの患者教育                           |

参加者からの質問⑥:「在宅医療」についておたずねします。  
 高齢のがん患者さんに対する在宅や施設内医療について、何か特別な活動が行われていますか。それは、どのような活動ですか。

| 回答者のお立場 | 回答内容   |
|---------|--|
| 患者関係者   | 熱心な医療者による在宅医療センター稼働(山梨県峡南市域)や、在宅医療研究会などによる地域医療の実践(市立牧丘病院中心)                        |
| 患者関係者   | 熱心な医師が何時所え一部見るべきものが生まれつつあるように思いますが、行政や医療提供者が協力してこの問題を推進しようという機運がようやく出来始めた段階でしょうか。  |
| 患者関係者   | 調剤薬局として高齢者のがん患者と家族支援をしております。音楽療法活動も兼ねて活動した事例もあり、緩和ケアに効果を見出しています。                   |
| 医療関係者   | 特別なことはできていません。ただ外来化学療法などが困難で必然的に入院期間が長くなりがちです。                                     |
| 行政関係者   | 在宅看取りを全県的に推進。  |
| 患者関係者   | 2005年から日本在宅ホスピス・緩和ネットワーク(奈良県在宅ホスピス研究会)が奈良県を中心に、在宅ホスピス・緩和ケア・啓発に努めてこられた。医療機関は37あります。 |
| 医療関係者   | 特に行われていません。  |
| 行政関係者   | がん対策推進協議会で検討することとしています。  |
| 患者関係者   | 患者にとって「在宅医療」は究極のこと。当事者が仕掛ける事こそ、大きな効果を生み出すだろう。まず 仕掛けを作ろう。幾つも。その中からどれかが効果を表して来るものだ。  |
| 患者関係者   | 末期がんが介護保険の対象となっていますが、若くして終末期を迎える患者のためにも、保険対象の年齢枠を撤廃して欲しいという意見が寄せられています。            |
| 患者関係者   | 情報不足   |

参加者からの質問⑦:「就労問題」についておたずねします。  
 がん患者さんの就労問題について、あなたの地域では何か対策が行われていますか。それは、どのような対策ですか。

| 回答者のお立場 | 回答内容  |
|---------|---|
| 患者関係者   | がん対策推進計画には記述されましたが、行政としては取り組みはありません。民間での取り組みとして、鹿児島県の相良病院(乳腺専門病院)では、ピアサポーターの雇用を行っています。              |
| 患者関係者   | 地域での対策ではないが、がんの罹患をカミングアウトして働き続けることによる「がんを隠さなくてもいいムード」が見えてきたこと                                       |
| 患者関係者   | がん条例に、事業者は、……、本人又はその家族ががん患者となった場合であっても働きながら治療を受け、療養し、看護し、又は介護することが出来る環境の整備に務めるものとする。と事業者の責務が書きこまれた。 |
| 患者関係者   | 情報なし。   |
| 医療関係者   | とくに存じません。   |
| 医療関係者   | 特に行われていません。   |
| 行政関係者   | 拠点病院と共催で就労について考える講演会を開催しました。  |
| 患者関係者   | 4月に、小児がん自立支援目的の農産物直売店を青果会社関係者の支援で開店したが、伸び悩んでいる。   |

参加者からの質問⑧:「予算」についておたずねします。  
 がん対策予算を充実させるために、あなたの地域では何か有効な活動が行われていますか。それはどのような活動ですか。

| 回答者のお立場 | 回答内容   |
|---------|--|
| 患者関係者   | がん患者団体連絡協議会として問題点を煮詰め、県当局に要望できる体制の整備を始めた。                                  |
| 患者関係者   | ピンクリボン運動の街頭キャンペーン、講演会開催。がん検診呼びかけのキャラバン隊を構築し企業などでがん経験者、家族等での無料講演を開催する。      |
| 医療関係者   | とくに存じません。  |
| 行政関係者   | がん患者団体連絡協議会が自立できるようその活動資金を得るための自動販売機の設置の支援(難病患者団体と共に)                      |
| 医療関係者   | 5月21日?22日、熊本で初めてリレーフォーライフが開催されました。   |
| 患者関係者   | がん条例制定の準備段階で、条例施行のための、お金と人材を付けて欲しい、と言う希望を、県内の全患者会より強硬にアピールしました。叶えられたと思います。 |
| 患者関係者   | 患者会は、そこまで目覚めていません。   |

参加者からの質問⑨:「患者アドボカシー活動に関する情報提供」についておたずねします。  
 アドボカシーに関する活動を、幅広い人に知ってもらうために、具体的にどのような工夫をされていますか。

| 回答者のお立場 | 回答内容  |
|---------|---|
| 患者関係者   | 行事ごとにメディア(地元の有力紙や放送機関)等に取り上げていただき広報してもらっています。   |
| 患者関係者   | セミナーや公開講座の開催、新聞への投稿、地元企業への連携の働きかけなど   |
| 患者関係者   | あまり具体的なことが書けません。  |
| 患者関係者   | 主催する講演会の際に行政、医師会、歯科医師会、医療系大学等、病院、クリニック等に後援、協賛を依頼する。地元のマスコミに活動紹介をする。                   |
| 患者関係者   | がんの子供を守る会愛媛支部として、経験者と共に、シンポジウムを行ったり、講演会を行ったり、映画「風のかたち」の上映会を開きました。                     |
| 医療関係者   | とくに存じません。   |
| 医療関係者   | 医療は医学と社会が結びついて成立しています。したがって、team-oncologyのcommunity resourceに働きかける必要があると考えます。         |
| 患者関係者   | 7月、9月に開催する[がんサロン支援塾]の開催に当たり、そのための動員方法こそ、幅広い人に知ってもらうための最大の手法であろう。ITをいかに活用するかが大きな力であろう。 |
| 患者関係者   | まずは、患者会に足を運び交流や活動内容を傾聴した。   |